

2025

講義要目

SYLLABUS

産 業 デ ザ イ ン 科



令和7年4月

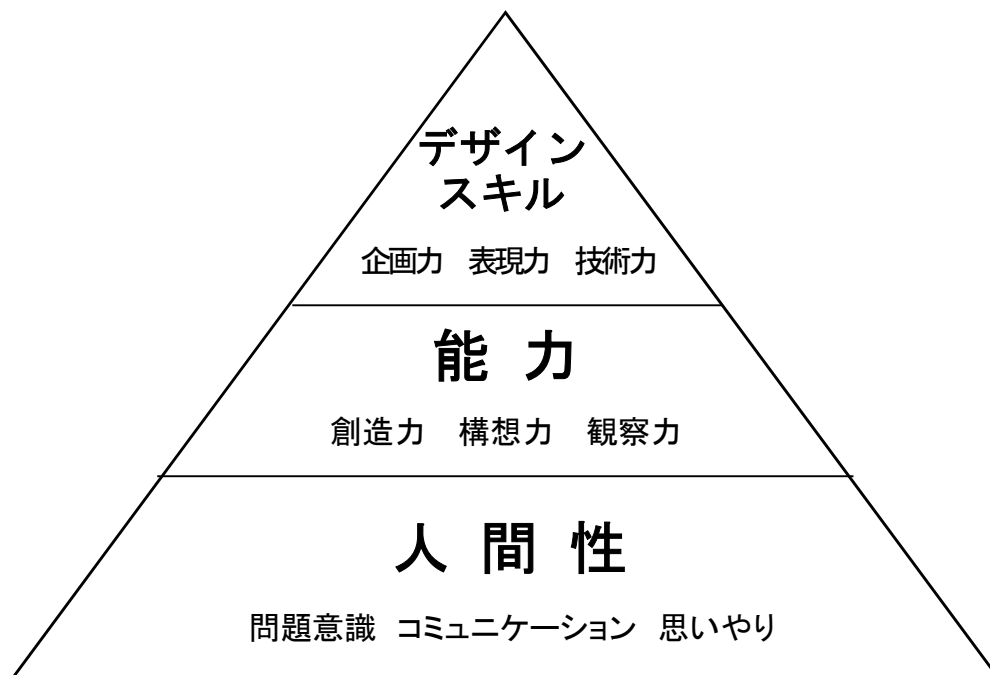
岩手県立産業技術短期大学校

Iwate Industrial Technology Junior College

Yahaba Campus

産業デザイン科からのメッセージ（産業デザイン科教育方針）

デザインは、長年にわたって製品の販売促進や付加価値を高める役割を担ってきました。そして、近年の少子高齢化や環境問題、経済など社会の変化に伴い、デザインの在り方は「もの」に対するビジュアル重視のイメージから、人間の暮らしを支え、人と人とを結びつける「こと」をつくりだす手法として期待されています。デザインの考え方は多様な産業に応用できるため、社会的役割はますます多くの分野へ広がっています。



デザインを行う上でベースとなるものは「人間や社会に対する興味関心」、そして「相手を思いやる心」と考え、産業デザイン科では「相手を思いやる心」を理念としてデザイン教育を行っています。

思いやりの心を持って人々の生活を観察し、その状況を改善するために必要な創造力や構想力、観察力の「能力」、企画力、表現力、技術力等の「デザインスキル」を養います。

スキル教育は、手作業と最新技術を活用した「ものづくり」で作業手法と作業効率の基礎を、「ことづくり」として企画立案のプロセスを、課題に取り組む中で体験します。

また、デザインの過程において必要なコミュニケーション能力や社会人として必要な基礎力の習得も重視し、挨拶や連絡などの日常の交流から指導を行っています。

このように、産業デザイン科では専門職としてのデザイナー養成ばかりではなく、製造現場や、企画、販売といったサービス業にいたるまで、幅広い職場でデザインの感性と手法を応用し、活用することで企業に貢献できる人材育成を目指しています。

産業デザイン科

履 修 科 目		単位数	1 年 次		2 年 次		記 載 No.
			I 期	II 期	III 期	IV 期	
一 般 教 育 科 目	職 業 社 会 論	2		2			4001
	心 理 学	2	2				4002
	経 済 学	2		2			4003
	数 学	2	2				4004
	物 理 学	2		2			4005
	英 語 I	2	2				4006
	英 語 II	2		2			4007
	保 健 体 育 I	2	2				4008
	保 健 体 育 II	2		2			4008
	保 健 体 育 III	2			2		4008
	一 般 教 育 科 目 合 計	20	8	10	2		
専 門 教 育 科 目	デ ザ イ ン 概 論	2	*) 2				4009
	伝 統 工 芸 論	2			2		4010
	マ ル チ メ デ ィ ア 概 論	2	*) 2				4011
	造 形 論	2	*) 2				4012
	色 彩 学	2	*) 2				4013
	デ ザ イ ン 材 料	2		2			4014
	デ ザ イ ン 史	2				2	4015
	生 産 工 学	2				2	4016
	安 全 衛 生 工 学	2	2				4017
	デ ザ イ ン 関 係 法 規	2				2	4018
	キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ I	2		2			4019
	キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ II	2			2		4020
	製 品 デ ザ イ ン 論 I	2		⒫*) 2			4021
	製 品 デ ザ イ ン 論 II	2		2			4022
	実 践 デ ザ イ ン 論	2			2		4023
	視 覚 伝 達 デ ザ イ ン	2		Ⓘ*) 2			4024
	ウ ェ ブ デ ザ イ ン 概 論	2	*) 2				4025
	製 品 計 画 論	2			⒫*) 2		4026
	感 性 工 学	2			2		4027
	材 料 加 工 法	2		2			4028
	環 境 デ ザ イ ン	2				2	4029
	視 覚 伝 達 計 画	2			Ⓘ*) 2		4030
	造 形 実 習	4	*) 4				4031
	伝 統 工 芸 実 習	4			4		4032
	デ ッ サ ン	3	*) 3				4033
	色 彩 実 習	4	*) 4				4034
	デ ザ イ ン 製 図	2		*) 2			4035
	マ ル チ メ デ ィ ア 実 習	4	*) 4				4036
	安 全 衛 生 作 業 法		他の実技に包括して実施				
	製 品 デ ザ イ ン 基 礎 実 習 I	2	*) 2				4037
	製 品 デ ザ イ ン 基 礎 実 習 II	13		*) 11			4038
	製 品 デ ザ イ ン 応 用 実 習	19			17		4039
	視 覚 伝 達 デ ザ イ ン 実 習	2		2			4040
	ウ ェ ブ デ ザ イ ン 実 習	2	2				4041
	プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 実 習	2				2	4042
	モ デ ル 制 作 実 習	2			2		4043
	材 料 加 工 実 習	2		2			4044
	製 品 計 画 実 習	2			2		4045
	卒 業 研 究	29				*) 29	4046
	専 門 教 育 科 目 合 計	136	31	29	37	39	
合 計 () 内 : 必 取 得 単 位 数		156	39	39	39	39	(⒫ 73)

注 1) * 記号は必取得単位科目[P:生活製品コース、I:情報伝達コース]を示す。

注 2) の科目はコース分けをして実施する。

(Ⓘ 73)

年度	2025	科目番号	4001
科目名	職業社会論	科目種別	一般
科目名：英語	Occupational Sociology	所属	産業デザイン科
担当教員名	金野 馨／及川 敦子		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	(1) 職業人として必要な知識と基本的素養を習得する。就職活動に必要な知識とスキルを習得する。特に、産業社会と働き方の大きな変化を知り、就職活動の参考にすることを旨とする。 (2) 社会人として仕事をしていく上での自覚と行動を考える。対人関係をスムーズにするために表情・身だしなみ・立ち居振る舞いを見直し実行できる。コミュニケーションの理論と実践を理解し実行できる（聴く話す力、チームコミュニケーション、情報共有、チームワーク等）。社会における人間力と社会人基礎力を理解する。 (3) (1)(2)の内容を踏まえ、それぞれのニーズにあった企業とのマッチングの実現に向け、就職活動に必要な実践力を身につける。		
授業の概要	(1) 職業人としての心構えと、就労と就職活動に必要な知識とスキルについて学ぶ。 (2) 講義と演習を通じ、社会人としての行動スキルとコミュニケーション能力を身につけ、相手の立場を考えた気遣いが出来る為の基礎力を習得する。 (3) 就活力を高めるために、就職支援セミナーなどを行う。		
キーワード	「働き方」の多様化、AI 産業革命、就職活動、SDGs、DX、正しい日本語、コミュニケーション		
授業計画	第 1 回 新視点で仕事や働き方の全体像を把握 ◎ 大きく変化する産業社会の実態を捉えること ① 仕事内容の変容と新しい働き方の現状を把握 ② 新産業社会の中での仕事と自らの適性を見極め方 第 2 回 新卒就活のポイントと働くために必要なこと ◎ 新卒就職を成功させるためのポイントを捉えること ① 新しい仕事・企業選択、応募書類作成、面接試験対応のポイント ② 仕事遂行・継続のために身につけなければならないこと 第 3 回 今後のあなたのキャリア形成に向けて ◎ 将来まで含め、自らの仕事生活設計を構想できる資質を養う ① 目標の立て方、企業生活（対人関係構築など）のあり方を学ぶ ② これからの産業社会のあり方及び方向性の把握 第 4 回 コミュニケーションの基本：テーマに合わせて自分のプレゼン 第 5 回 コミュニケーションにおける話し方・聴き方：挨拶の効用 第 6 回 現代の日本語を考える：きれいな発声・発音 第 7 回 正しい日本語・言葉遣い：尊敬語、謙譲語、丁寧語 第 8 回 社会人としての心構え：冠婚葬祭のマナー 第 9 回 ビジネスマナーの基本：名刺、電話応対 第 10 回 コミュニケーションのまとめと確認 第 11～20 回 就職ガイダンス；就職活動の仕方と心構え 企業研究（説明会等）・職業講話；職業理解とキャリア形成 就職セミナー；自己分析と自己表現方法、求人票の見方等 書類準備・試験対策等		
教科書、教材等	(1)(3)オリジナル教材(2)「コミュニケーション技法（㈱ウイネット発行）」、オリジナル教材		
授業の形式	(1)講義(2)テキストに沿った講義、発言やプリント等によって演習を行う(3)講話及び個別指導		
成績評価の方法	課題演習、課題テスト、主体的な授業参加度等で評価する。		
履修の留意点	(1)は金野講師（第 1 回～第 3 回）、(2)は及川講師（第 4 回～第 10 回）、(3)は科就職担当（第 11 回～20 回）が担当。回は前後する場合がある。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4002
科目名	心理学	科目種別	一般
科目名：英語	Psychology	所属	産業デザイン科
担当教員名	山崎 剛信		
開講学期／単位数	I 期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	知覚、学習、個人差、発達、社会など心理学の基礎について学ぶことで、感性、創造力、問題解決能力を養い、自身の専門分野、仕事、日常生活に生かせるようになる。		
授業の概要	プリントやビデオを用いながら、講義形式で進める。 適宜レポートを課し、講義で学んだことを、授業時間外でも考えてもらう。		
キーワード	認知、感情、集団、ストレス		
授業計画	◎心と適応の問題について 第 1 回 心理学とは 第 2 回 心の進化 第 3 回 心の発達 第 4 回 青年期の課題 第 5 回 動機づけ 第 6 回 性格 第 7 回 知能 第 8 回 ストレスとメンタルヘルス 第 9 回 カウンセリングと心理療法 ◎心のしくみについて 第 10 回 感覚 第 11 回 知覚 第 12 回 記憶 第 13 回 学習 第 14 回 思考 第 15 回 脳 第 16 回 脳損傷と心 第 17 回 集団のなかの人 第 18 回 心と社会 第 19 回 試験 第 20 回 まとめ		
教科書、教材等	なし		
授業の形式	講義形式、適宜ディスカッションをはさむ。		
成績評価の方法	試験、主体的な授業参加度、提出物を総合的に評価する。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4003
科目名	経済学	科目種別	一般
科目名：英語	Economics	所属	産業デザイン科
担当教員名	鈴木 智香		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	本授業の到達目標は以下の4点である。 第1に資本主義社会の成立と発展を歴史的に説明できる。 第2に経済学の基礎理論を理解し、資本主義社会の仕組み(商品流通を含む)と市場メカニズムの説明ができる。 第3に企業における経営戦略とマーケティングについて理解し説明できる。 第4に現代社会における経済的問題、企業が抱える諸問題を把握し解決策を模索できる。		
授業の概要	経済学は大きく理論、歴史、政策に分類される。本授業ではこれらの基礎を学ぶことに加え、近年複雑化する流通や経営戦略・マーケティングの基礎についても学習する。上記を学ぶため本授業では以下の構成をとる。はじめに、資本主義社会の成立と発展について説明する(第1回～4回)。次に、古典派経済学からミクロ経済の基礎といった経済理論について説明する(第5回～第8回)。そして、市場経済の発展に伴い複雑化する商品流通とその構造について説明する(第10回～第14回)。最後に、企業の経営戦略とマーケティングの役割について解説する(第15回～18回)。 以上の学習を通して、経済学、経営学の基礎に対する理解を深め、現代社会における経済的問題や企業が抱える諸問題を把握し解決策を模索できるようになってもらいたい。		
キーワード	経済学、経済史、流通経済論、経営戦略、マーケティング		
授業計画	第 1 回 授業ガイダンス 経済学とは 第 2 回 資本主義社会の成立と発展① イギリスにおける資本主義社会の成立と産業革命 第 3 回 資本主義社会の成立と発展② 日本における資本主義社会の成立と産業革命 第 4 回 資本主義社会の成立と発展③ 戦後の日本経済 第 5 回 アダム・スミスと経済 第 6 回 リカードの比較優位性の原理 第 7 回 マルクスと労働価値説 第 8 回 市場と市場メカニズム 第 9 回 復習問題と解説 第 10 回 市場経済における流通の役割 第 11 回 物流と商流 第 12 回 流通過程における卸売業の機能と役割 第 13 回 流通過程における小売業の役割 第 14 回 流通過程における統合(インテグレーション) 第 15 回 経営戦略のマネジメント① 重要性とその役割 第 16 回 経営戦略のマネジメント② 3C 分析と SWOT 分析(企業の内部環境と外部環境) 第 17 回 企業経営におけるマーケティングの役割 第 18 回 マーケティング・ミックス 第 19 回 試験 第 20 回 試験の解説と現代社会における経済・経営における諸問題について		
教科書、教材等	自作プリント(毎授業配布する)		
授業の形式	スクリーン映像利用の講義形式		
成績評価の方法	試験 60%、小テスト・レポート 30%、受講態度 10%で評価する。		
履修の留意点	授業レジュメを読み復習すること。		
参考・推薦図書等	中矢俊博『入門書を読む前の経済学入門(第四版)』同文館出版、2017 年 加藤義忠・齋藤雅通・佐々木保幸『現代流通入門』有斐閣ブックス、2007 年		

年度	2025	科目番号	4004
科目名	数学	科目種別	一般
科目名：英語	Mathematics	所属	産業デザイン科
担当教員名	本田 卓		
開講学期／単位数	I 期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	・日常生活の中に潜む数学の美しさや楽しさにふれ、数学的な見方や考え方が身につくとともに、数学に対する興味・関心が高まる。 ・事象を数学的な見方や考え方でとらえられるようになること。 ・課題に対して、自分なりの工夫をしたり、多様な見方ができるようになる。		
授業の概要	・これまで学習した数学の内容をさらに深めたり、日常生活の中に潜んでいる事柄の背景にある数学的な内容について考えたりしていく。数学の難問を解くのではなく、時に手を動かしながら、時に数学的なアイデアを探りながら、時には周囲と意見を交わしながら、展開していく。そのような活動を通して、数学の学習内容をより確かなものにしていったり、数学的な見方や考え方を次第に身につけていったりすることをねらっていく。 ・中学校数学科や高等学校数学 I 程度の学習内容をもとに、数学 A・数学 II・数学 B の内容についても触れていく。各テーマの終わりに関連する SPI 問題を一緒に解く。		
キーワード	数学的活動、数学の楽しさ・大切さ、ハンズオン・マス、数学的な見方や考え方		
授業計画	第 1 回 「数学」について 第 2 回 推論とは？ルイスキャロルの挑戦状 ① 第 3 回 推論とは？ルイスキャロルの挑戦状 ② 第 4 回 自然数と無限、アキレスと亀のパラドックス ① 第 5 回 自然数と無限、アキレスと亀のパラドックス ② 第 6 回 実数の不思議、数と量 ① 第 7 回 実数の不思議、数と量 ② 第 8 回 最適な戦略とは、ゲームの理論 ① 第 9 回 最適な戦略とは、ゲームの理論 ② 第 10 回 中間課題 第 11 回 集合と論理、ラッセルのパラドックス ① 第 12 回 集合と論理、ラッセルのパラドックス ② 第 13 回 データの見方、シンプソンのパラドックス ① 第 14 回 データの見方、シンプソンのパラドックス ② 第 15 回 確率の哲学、確率とは何か？ ① 第 16 回 確率の哲学、確率とは何か？ ② 第 17 回 デザインと曲線、ベジェ曲線 ① 第 18 回 デザインと曲線、ベジェ曲線 ② 第 19 回 期末試験 第 20 回 期末試験の解答と解説		
教科書、教材等	自作教材を中心に展開するが、高等学校数学 I・数学 A・数学 II・数学 B の教科書を持っている者は手元に置いておくとよい。		
授業の形式	講義と演習を併用しながら、毎回、問題解決型の授業を展開していく。数学の難問を解くのではなく、数学的なアイデアを出し合い、それを共有していくことを原則とする。		
成績評価の方法	授業時の課題・中間課題・期末試験による評価（授業に対する意欲を重視する。）		
履修の留意点	毎回、授業の中で課題を行う。問題が解けたかどうかよりも、その問題を通して「何を学ぶことができたか」を重視する。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4005
科目名	物理学	科目種別	一般
科目名：英語	Physics	所属	産業デザイン科
担当教員名	廣瀬 宏一		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	一般教養として、また一部は専門教科を学ぶために必要な物理の基礎を身につける。主として力学を据え、熱とエネルギー、波と光、電気と磁気、量子力学まで、広範囲の物理を学ぶ。可能な限り専門課程を意識して、デザインに必要な力学の知識や光と波に関する知識の取得に多くの時間をかけて学び、基礎的な物理についても理解を深める。		
授業の概要	主として力学を据え、基本的には力を受けることによって運動に変化が起こること、また、この変化は数学を用いて関数として表現できることなどを示す。 講義の冒頭、この講義を進めるに当たって不可欠な物理学の単位と数学の基礎とに触れる。その後、力と運動の関係を具体的な現象を通して概説する。力学的エネルギー保存則や運動量保存則を通して、物理量の保存法則という考え方を概説する。 さらにデザインに必要な力学や光と波に関して概説する。熱とエネルギー、電気と磁気についてはデザインとの関連性において、簡単に概説する。講義のなかで演習を随時行うとともに、授業の進行によって最新の研究的な取り組みの紹介などを行う場合がある。		
キーワード	力と運動、ニュートン力学、波と光、熱とエネルギー、電気と磁気		
授業計画	第 1 回 <物理を学ぶための基礎> 0.1 単位と次元 0.2 数量換算と有効数字 第 2 回 0.3 基礎となる演算法と関数 第 3 回 <1. 力と運動> 1.1 運動（自由落下運動） 第 4 回 <1. 力と運動> 1.2 力（力の合成とベクトル演算） 第 5 回 力の合成とベクトル演算の演習 第 6 回 1.3 ニュートンの運動の法則 第 7 回 1.4 運動量の保存（物体の衝突） 第 8 回 1.5 力学的エネルギーと力学的エネルギー保存 第 9 回 1.6 いろいろな運動（摩擦力を受ける物体の運動） 第 10 回 1.6 いろいろな運動（等速円運動と単振動と三角関数） 第 11 回 授業内容の理解度確認試験 第 12 回 <3. 波と光> 3.1 波 3.2 波の重ね合わせ 第 13 回 3.3 波の伝わり方 3.4 音波 第 14 回 3.5 光 第 15 回 <2. 熱とエネルギー> 2.1 熱と温度 2.2 熱と仕事 第 16 回 2.2 熱と仕事 熱の伝わり方 第 17 回 <4. 電気と磁気> 第 18 回 期末試験 第 19 回 期末試験の解答と補足 第 20 回 <5. 原子の世界>		
教科書、教材等	基礎物理（第 4 版）（山田泰一・伊藤悦朗・北村美一郎・杉本徹 著 東京教学社） ISBN978-4-8082-2088-4		
授業の形式	板書や PPT などを用いた講義，演習を行う。資料を配布する場合もある。		
成績評価の方法	理解度確認試験・期末試験の成績および講義への積極的な取り組みなどで評価する。		
履修の留意点	板書・口述事項など各自工夫してメモすること。予習，復習を基本とする。 演習などに備え，計算用の電卓を持参すること。 授業の際に高校の時に履修した物理学の教科書を持参することが望ましい。		
参考・推薦図書等	図解 もの創りのためのやさしい機械工学（改訂第 3 版）（門田和雄 著）技術評論社 ISBN978-4-297-11962-1 C3053 和田 純夫 監修 Newton 別冊 「学びなおし 中学・高校物理」 ISBN978-4-315-52365-2		

年度	2025	科目番号	4006
科目名	英語 I	科目種別	一般
科目名：英語	English I	所属	産業デザイン科
担当教員名	ハリス・アンドリュウ		
開講学期／単位数	I 期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	・ 英語で物や場所、考えを説明し表現できる。 ・ 意見と経験を英語で表現できる。 ・ 人前で自信を持って英語を使える。 ・ 創造力と英語力を同時に使えるようになる。		
授業の概要	・ リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを学びます。 ・ 教科書と追加のワークシートを使用しライティング練習 ・ ペア・グループワークとプレゼンテーションで話す練習 ・ 毎週宿題の提出 ・ ビデオ、e ラーニングアクティビティ、及びゲーム		
キーワード	プレゼン、意見、感情表現、説明		
授業計画	第 1-2 回：初回・顔合わせ；プレゼン 1 自己紹介、 第 3-5 回：Unit 1 日常生活の活動状況；プレゼン 2 「私の理想の日」 第 5-7 回：Unit 2 仕事についての話；デザイナープロフィール 第 7-9 回：Unit 3 現在の個人的イベント；中間テスト 第 10-12 回：Unit 7 影響力のある人々；ライフストーリーと日付；プレゼン 3 「私の尊敬する人」 第 13-15 回：Unit 4 計画を立てる；感情表現、意見；理由の提示 第 16-17 回：復習 第 18-20 回：試験・解説		
教科書、教材等	Stretch Level 1, 2 nd ed: Student book with Online Practice. Susan Stempleski OXFORD university press ISBN 978-0-19-413593-1		
授業の形式	教科書または各科提供教材に準じて講義を進め、会話練習をペアワークで行う		
成績評価の方法	テスト、プレゼンテーション、レポート、オンライン宿題、試験		
履修の留意点	授業以外でも積極的に復習すること。宿題をすること。英語を話してみる		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4007
科目名	英語Ⅱ	科目種別	一般
科目名：英語	EnglishⅡ	所属	産業デザイン科
担当教員名	ハリス・アンドリュウ		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	・英語で物や場所、考えを説明し表現できる。 ・意見と経験を英語で表現できる。 ・人前で自信を持って英語を使える。 ・創造力と英語力を同時に使えるようになる。		
授業の概要	・リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを学びます。 ・教科書と追加のワークシートを使用しライティング練習 ・ペア・グループワークとプレゼンテーションで話す練習 ・毎週宿題の提出 ・ビデオ、eラーニングアクティビティ、及びゲーム		
キーワード	プレゼン、意見、感情表現、説明		
授業計画	第 1-3 回：Unit 5 最近のイベントについて語る；プレゼン1「週末のお気に入りのアクティビティ」 第 4-6 回：Unit 6 場所の説明 第 7-9 回：Unit 10 服と色の優先；比較対象；中間テスト 第 10-12 回：Unit 12 旅行：将来の計画 第 13-15 回：Unit 9 健康問題とアドバイス；プレゼン2「健康効果」 第 16-17 回：復習 第 18-20 回：試験、解説		
教科書、教材等	Stretch Level 1, 2 nd ed: Student book with Online Practice. Susan Stempleski OXFORD university press ISBN 978-0-19-413593-1		
授業の形式	教科書または各科提供教材に準じて講義を進め、会話練習をペアワークで行う。		
成績評価の方法	テスト、プレゼンテーション、レポート、オンライン宿題、試験		
履修の留意点	授業以外でも積極的に復習すること。宿題をすること。英語を話してみる		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4008
科目名	保健体育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	科目種別	一般
科目名：英語	Health and Physical EducationⅠ・Ⅱ・Ⅲ	所属	産業デザイン科
担当教員名	畠山 健		
開講学期／単位数	Ⅰ期／2単位（20回）・Ⅱ期／2単位（20回）・Ⅲ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	・豊かなスポーツライフを実現するために、課題を発見し合理的、計画的に導いていく。 ・自己や仲間と課題に取り組みながらコミュニケーションスキルを身につける。 ・毎日検温を実施し健康管理に努め、体の状態や情報を集め社会生活に取り入れていく。		
授業の概要	・感染症対策ため手洗い、換気、大声、密対策を意識して授業に取り組むこと。 ・技能レベルも異なるため均等なチーム分けになるよう編成する。 ・意欲的、自主的な態度で積極的に取り組むことが望ましい。 ・基本的な技能を身につけ仲間と連携してゲームが展開できるようにする。 ・序盤からゲーム制を取り入れ、互いに協力し合理的、計画的に課題解決を図っていく。 ・ルールについては、全員が楽しむために簡易的にしたり、接触プレーを避けたりする時がある。フェアプレー精神を忘れずに励むこと。その都度ルールを変更する。 ・探究心を養うためにスポーツ科学やスポーツ文化に対する関心を高めること。 ・期末には保健の授業を行い、健康課題の把握、解決方法の習得を目指し、将来に向けたヘルスプランの構築を図る。		
キーワード	体づくり、ストレッチ、バランス、レディポジション、コミュニケーションスキル、安全の確保、現代社会と健康、救急処置など		
授業計画	[保健体育Ⅰ] 第 1 回：オリエンテーションと体ほぐし運動 第2～16回：①ネット型スポーツ「バレーボール」「卓球」「バドミントン」「テニス」 ②ゴール型スポーツ「バスケットボール」「サッカー（フットサル）」「ハンドボール」 ③ベースボール型スポーツ「野球」「ソフトボール」「フットベース」 ④ダンス（アイソレーション、ステップ、リズム運動） ⑤ニュースポーツ（ドッチビー、ジャグリングなど） 上記の④・⑤などを活用して体ほぐし運動を実施する。 ①・②・③型の球技スポーツを中心に授業を展開し課題に取り組む。 第 17 回：実技テスト 第18・19回：講義（保健） 第 20 回：筆記テスト（保健） [保健体育Ⅱ] 保健体育Ⅰと同様 [保健体育Ⅲ] 保健体育Ⅰと同様		
教科書、教材等	自作プリント、WEBを活用		
授業の形式	対面形式での実技および講義		
成績評価の方法	主体的な授業の参加度、意欲的・自主的な態度、課題の解決状況、実技テストや筆記試験及びレポート等で評価をする。		
履修の留意点	受講前後の手洗いの徹底する。換気の徹底。自己の体力の程度に応じる運動をする。安全を確保し怪我を未然に防ぐ。体調管理に十分気をつける。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4009
科目名	デザイン概論	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Introduction to Design	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 正明		
開講学期／単位数	I 期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	【目的】 ・ 仕事でデザインを活用することの意味を理解できることが求められる 【到達目標】 ・ デザインの基本理念と役割が理解できる ・ デザインに関する歴史や制度が理解できる ・ デザインの考え方と作業の流れを理解できる ・ 職業としてのデザインが理解できる		
授業の概要	・ 生活の場におけるデザインの意義、またその役割や理念について学ぶ ・ デザイン業の概要や種類について学ぶ ・ 知識だけではなく問題の発見、解決策の発想法なども学ぶ ・ デザイン活動に必要な要素や身に付けるべき能力についてグループワークによる演習を交えて解説する		
キーワード	グラフィックデザイン、プロダクトデザイン、web デザイン、企画、プレゼンテーション		
授業計画	第 1 回 講義内容の紹介 第 2,3 回 デザインとは 第 4～6 回 情報伝達のデザイン 第 7～9 回 生活製品のデザイン 第 10,11 回 デザインの仕事 第 12,13 回 ピクトグラム 第 14～16 回 グループワークによる演習 第 17 回 期末試験前のまとめ 第 18 回 期末試験 第 19 回 期末試験解説 第 20 回 まとめ		
教科書、教材等	HELLO, DESIGN 日本人とデザイン（著：石川俊祐、出版：幻冬舎） 「売る」から、「売れる」へ。水野学のブランディングデザイン講義（著：水野学、出版：誠文堂新光社） 自作プリント		
授業の形式	自作プリントに従って授業を進め、演習を行う。		
成績評価の方法	期末試験及びレポート、授業への参加度（積極性）で評価する。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4010
科目名	伝統工芸論	科目種別	専門
科目名：英語	Knowledge of Traditional Craft	所属	産業デザイン科
担当教員名	王 重予		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2 単位 (20 回)		
授業の到達目標	【目的】 ・ 伝統工芸とその現状について理解し、課題解決のための具体的な提案ができる能力が求められる。 【到達目標】 ・ 工芸および工芸と生活のかかわりについて知っている ・ 岩手県を中心とした伝統的工芸品産業の歴史及び製品、技術等を知っている ・ 現状における課題について理解できる ・ 工芸の役割と問題解決のための具体的な提案ができる		
授業の概要	・ 工芸全般の歴史的環境、本質と生活とのかかわりを学ぶ ・ 岩手県を中心とした日本の伝統的工芸品産業の歴史と製品を知る ・ 現状における課題を把握することにより、工芸に対する知識と理解を深める		
キーワード	伝統工芸、工芸史、岩手 漆		
授業計画	第 1 回 授業内容の紹介 第 2～3 回 工芸史 第 4～9 回 日本の伝統的工芸品について 1 第 10 回 漆工芸の基礎 第11～18 回 日本の伝統的工芸品について 2 第 19 回 岩手の伝統工芸について 第 20 回 期末試験		
教科書、教材等	自作プリント・スライド等		
授業の形式	座学・演習		
成績評価の方法	期末試験及びレポート、授業への参加度（積極性）による評価する。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4011
科目名	マルチメディア概論	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Introduction to Computer Design	所属	産業デザイン科
担当教員名	小岩 真佳		
開講学期／単位数	I 期／2 単位(20 回)		
授業の到達目標	【目的】 ・ デザインの現場で仕事するためにコンピュータの仕組みや周辺機器、ネットワークの仕組みやデータの扱い方の知識が必要である 【到達目標】 ・ コンピュータの仕組みを理解し、簡単に説明することができる ・ コンテンツ制作におけるコンピュータの関わりについて基本的なことが理解できる ・ ハードウェアとソフトウェアの違いを理解できる ・ コンピュータの基本的な設定ができる ・ 印刷物やウェブサイトなどで使われる画像を適切に選択し、使用することができる ・ 印刷物やウェブサイトなどで使われる単位について適切に選択し、使用することができる ・ プリンタを使って印刷することができる ・ スキャナを使って画像やスケッチ、イラストなどをコンピュータに取り込むことができる ・ 描画ソフトと画像編集ソフトを連携して印刷物やウェブサイトで使用するデータの作成、編集ができる ・ インターネットの仕組みを簡単に説明できる ・ インターネットを利用して情報収集を行い、その情報との関わり方を自分でコントロールすることができる ・ コンピュータやインターネットが、どのように私たちの生活に影響してきたのかを理解できる ・ 新しい技術など、これからの技術に対応するための準備ができる		
授業の概要	・ コンピュータを使った作業を行うための基礎知識を学ぶ ・ コンピュータの仕組みについて学ぶ ・ コンピュータの周辺機器について学ぶ ・ ソフトウェアの種類やその活用について学ぶ ・ インターネットの仕組みについて学ぶ ・ 印刷物やウェブサイトのデータ作成に必要な知識を学ぶ ・ 複数のメディアを使ったデザインの展開方法について学ぶ ・ これからの新しい技術やそれらの活用事例などについて学ぶ		
キーワード	コンピュータ、インターネット、DTP、ハードウェア、ソフトウェア		
授業計画	第 1 回 授業内容の紹介/パソコンの使い方 第 2 回 インターネットツールの使い方 第 3,4 回 パソコンの基礎知識（ハードウェアとソフトウェア） 第 5,6 回 マルチメディアの基礎知識（描画、画像編集の基礎知識） 第 7,8 回 マルチメディアの基礎知識（画像の種類、色数、単位など） 第 9 回 描画ソフトと画像編集ソフトの連携 第 10,11 回 各種周辺機器の基礎知識（プリンタ、スキャナ） 第 12,13 回 インターネットの基礎知識 第 14,15 回 ネットリテラシー 第 16 回 これからのマルチメディアを取巻く環境（AI、IoT、先端技術） 第 17 回 コンピュータの歴史 第 18～20 回 期末試験、まとめ		
教科書、教材等	自作プリント		
授業の形式	自作プリント、教材によって授業を進める。		
成績評価の方法	期末試験及びレポート、授業への参加度（積極性）で評価する。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4012
科目名	造形論	科目種別	専門
科目名：英語	Theory of Design Composition	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 直也		
開講学期／単位数	I 期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	【目的】 ・ 理論的にデザインの構成について理解し、基礎的知識を言語化できる能力が求められる 【到達目標】 ・ デザインの基礎知識として、形を構成する要素とその心理的効果、画面構成や表現の手法について理解することにより、デザイン制作の作業に必要な知識を活かすことができる		
授業の概要	・ デザイン構成の基礎的な意味合い、構成のための要素、構成によって生じる心理的効果について学ぶ ・ 様々な構成技法とその統合による総合的な制作手法について学び、個々のデザインワークに反映する知識を学ぶ		
キーワード	デザインと構成、構成エレメント、構成と心理、構成手法、制作手法		
授業計画	第 1 回 講義内容の紹介 第 2～3 回 デザインと構成 第 4～6 回 構成要素 第 7～8 回 構成と心理 第 9～13 回 構成手法 第14～15 回 制作手法 第16～17 回 事例研究 第 18 回 まとめ 第 19 回 期末試験 第 20 回 期末試験解説		
教科書、教材等			
授業の形式	資料等のスライド提示説明を中心とした座学		
成績評価の方法	授業への取り組み（積極性）、演習課題、期末試験で評価する。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4013
科目名	色彩学	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Science of Color	所属	産業デザイン科
担当教員名	王 重予		
開講学期／単位数	I 期／2 単位(20 回)		
授業の到達目標	【目的】 ・ クライアントやターゲットに影響を与えるデザインを作成するために色彩について基本的知識が必要である 【到達目標】 ・ 科学、生理学、心理学、芸術学など様々な角度から学ぶことで、色彩の概念を理解することができる ・ 色彩とは何か、色彩が人間の感情にどのような効果をもたらすかを理解できる ・ 基礎知識を得た上で、色の特性や効果をデザインに有効かつ自在に活用することができる		
授業の概要	・ 光と色の関係を理解し、人が色を感じるメカニズムや色が人体に与える影響・心理的効果について学ぶ ・ 代表的な表色系と色の三属性について学ぶ ・ カラーユニバーサルデザインについて学ぶ ・ 配色を中心に、より実践的な知識を身につける ・ 単元に応じて演習を行い、授業内容の理解を体験的に深める		
キーワード	光、色、色彩、配色、理論、色彩心理、カラーユニバーサルデザイン		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション、色とは何か 第 2、3 回 視覚と色、色の見え方の不思議 第 4～8 回 色を記録、伝達する方法 色の名前、色の三属性、混色、代表的な表色系（顕色系・混色系） 第 9、10 回 色のユニバーサルデザイン 第 11～13 回 色の効果 第 14 回 色彩理論 第 15～17 回 配色のルール 第 18 回 まとめ 第 19 回 期末試験 第 20 回 試験解説		
教科書、教材等	「書き込み式色彩検定3級 解いて・貼って・覚える！」（著：岩尾美穂、出版：学芸出版社）、配色カード199a、自作プリント・スライド		
授業の形式	自作プリントと教材に従って授業を進める。		
成績評価の方法	期末試験、演習課題、授業への参加度（積極性）で評価する。		
履修の留意点	色彩検定等を目指す場合は、授業で扱わない範囲について自主的に学びを深めておくこと		
参考・推薦図書等	「色彩検定 公式テキスト UC 級」監修（公社）色彩検定協会		

年度	2025	科目番号	4014
科目名	デザイン材料	科目種別	専門
科目名：英語	Materials for Design	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 直也		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2 単位 (20 回)		
授業の到達目標	【目的】 - 工業製品をデザインするうえでの基礎基本として、材料の特質や特性に対する知識理解を深めることが必要である 【到達目標】 - 各分野のデザインで使用される材料について、その性質と製品への活用について理解し、適切な材料の選択と、その加工技術についての知識を習得し、制作に活かすことができる		
授業の概要	- 身の回りにある様々な工業製品がどのような材料で構成されているかを学ぶ - 材料ごとにそれぞれの組成の違いによる特徴や性質、分類等について理解を深める - 材料工学的な知識だけに留まらず、製品デザインの観点から、製品の使用目的やコスト、市場における製品の位置づけ等を考慮しつつ、企画やデザインの段階でどういう基準で材料を選択すべきかを考察を進める		
キーワード	有機材料、無機材料		
授業計画	第 1 回 授業内容の紹介 第 2 回 デザイン材料の選択 【有機材料の特性と活用】 第 3～4 回 塗料と色材 第 5 回 紙類 第 6～7 回 繊維・皮革類 第 8～10 回 木材・木質系材料 第 11～12 回 合成樹脂材料 第 13 回 接着剤 第 14 回 その他の有機材料 【無機材料の特性と活用】 第 15～16 回 金属材料 第 17 回 セラミック材料 第 18 回 ガラスとその他の無機材料 第 19 回 材料選択と活用の事例 第 20 回 期末試験		
教科書、教材等	自作プリント・スライド等		
授業の形式	座学		
成績評価の方法	期末試験、レポート、授業への取り組み（積極性）による評価。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4015
科目名	デザイン史	科目種別	専門
科目名：英語	History of Design	所属	産業デザイン科
担当教員名	北條 恭子		
開講学期／単位数	Ⅳ期／2 単位 (20 回)		
授業の到達目標	【目的】 ・ 歴史的に有名なデザイン様式や作品についての幅広い知識が、共通認識として求められる 【到達目標】 ・ 産業革命以降のデザイン運動の経緯とその意義を理解できる ・ 産業デザインの歴史について学び、時代背景を踏まえながら各時代の人物とそれらの作品についての意義を考えることができる ・ デザイン史を通して得た知識をもとに自らの考察を論ずることができる		
授業の概要	・ 歴史上の優れたデザインと著名デザイナーの活動とその作品群を学ぶ ・ デザインが生まれた背景と歴史的な出来事との関係を学ぶ ・ 機械生産の発達、工業製品の大量生産とともに生じたデザインをめぐる諸問題について学ぶ ・ 様々なスタイルの変化を伴いながらその後の産業全体にどのような影響を与え、人々の生活がどう変化していったかについて考察を行う		
キーワード	デザイン、工芸、建築、工業、デザイン様式、西洋美術史、日本美術史		
授業計画	第 1 回 ガイダンス・産業革命と近代デザインの源流 第 2～3 回 アーツ・アンド・クラフツ運動とウィリアム・モリス 第 4～6 回 アール・ヌーヴォー 第 7～8 回 ドイツ工作連盟 第 9～10 回 アール・デコ 第 11～13 回 バウハウス 第 14 回 デ・スティーレル 第 15 回 未来派、ロシア・アバンギャルド 第 16 回 アメリカのインダストリアルデザイン 第 17 回 現代のデザイン 第 18 回 まとめ 第 19 回 期末試験 第 20 回 解説		
教科書、教材等	「カラー版図説 デザインの歴史」学芸出版社 発行、自作プリント・スライド等		
授業の形式	自作プリントと教材に従って授業を進める。		
成績評価の方法	期末試験及びレポート、授業への参加度（積極性）で評価する。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4016
科目名	生産工学	科目種別	専門
科目名：英語	Production Engineering	所属	産業デザイン科
担当教員名	田中 俊行		
開講学期／単位数	Ⅳ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	【目的】 ・ 生産活動における効率化や品質向上に向けての手法を理解することが求められる 【到達目標】 ・ ものを生産する基本的プロセスと管理について、その概念から応用まで、ものづくりのシステムについて知ることができる ・ 製品デザイン活動における、生産条件について考えることができる		
授業の概要	・ デザイン開発において重要な、生産現場の「生産性」を学ぶ ・ 「生産」に対する認識を深めるため、生産品に対する製造条件や、製造方法、生産上の管理項目、管理手法を、実例紹介を交えながら学ぶ		
キーワード	生産技術、生産性、効率、トヨタ生産方式、環境問題		
授業計画	第 1 回 講義内容の紹介 第 2～4 回 ものづくりの歴史 第 5～7 回 生産活動とその技術 第 8～9 回 産業競争とデザイン 第10～13 回 社会や環境問題について 第14～15 回 生産の計画と準備 第16～17 回 生産システム 第 18 回 まとめ 第 19 回 期末試験 第 20 回 試験解説		
教科書、教材等	自作プリント		
授業の形式	自作プリントとスライドに従って授業を進める。		
成績評価の方法	期末試験（レポート）及び授業への参加度（積極性）で評価する。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4017
科目名	安全衛生工学	科目種別	専門
科目名：英語	Knowledge for Safety and Health	所属	産業デザイン科
担当教員名	田中 俊行		
開講学期／単位数	I 期／2 単位 (20 回)		
授業の到達目標	【目的】 ・ 職業人として安全に関するモラルを行動能力としてしっかり身につけ、状況に応じて敏速適確に対応できるようになることが求められる 【到達目標】 ・ 快適な職場環境を形成するための基礎的な知識を習得し、職場における労働者の安全と健康を確保する事ができる		
授業の概要	・ 健全な職業生活の妨げとなる災害について事例を交えて学ぶ ・ 近年、健全な労働を妨げることとして社会的問題となっているメンタルヘルスについてその予防と対策について学ぶ		
キーワード	労働 災害 安全 衛生 メンタルヘルス		
授業計画	第 1 回 講義内容の紹介 第 2～3 回 災害発生メカニズム 第 4～7 回 労働災害 第 8～9 回 安全対策の基本 第 10 回 実習室チェック 第11～12回 安全衛生の法規と管理 第13～14回 メンタルヘルス 第15～17回 環境汚染と地球環境問題 第 18 回 まとめ 第 19 回 期末試験 第 20 回 試験解説		
教科書、教材等	自作プリント・スライド等		
授業の形式	座学・演習		
成績評価の方法	期末試験、レポート、授業への参加度（積極性）による評価。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4018
科目名	デザイン関係法規	科目種別	専門
科目名：英語	Law Related to Design (Intellectual Property Right)	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 正明		
開講学期／単位数	Ⅳ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	【目的】 ・ デザイン業務において、自らの創作物に関する権利を保護するとともに、他社の権利を侵害しないための知識を有することが求められる 【到達目標】 ・ デザイン業務における知的財産に関する知識の必要性が理解できる ・ 知的財産権の概要を説明できる ・ 自らの権利を守る方法が説明できる ・ 他者の権利侵害とならない知的財産の利用方法が理解できる		
授業の概要	・ 知的財産権の細かな分類の説明 ・ それぞれの権利の効力の解説 ・ 特許プラットフォームでの商標・意匠・特許検索 ・ 実際に起こった訴訟事例等の紹介 ・ 他者の知的財産を利用する場合のガイドラインの解説		
キーワード	知的財産、著作権、商標権、意匠権、特許権、不正競争防止法、肖像権、権利侵害		
授業計画	第 1 回 知的財産権の概要 第 2～4 回 著作権 第 5, 6 回 商標権 第 8, 9 回 意匠権 第 10 回 商標・意匠検索 第 11, 12 回 特許・実用新案権 第 13 回 不正競争防止法 第 14 回 肖像権 第 15, 16 回 判例紹介 第 17 回 期末試験前のまとめ 第 18 回 期末試験 第 19～20 回 まとめ		
教科書、教材等	知的財産管理技能検定(R) 3 級 スピードテキスト（出版：早稲田経営出版） 自作プリント		
授業の形式	教科書及び自作プリントに従って授業を進める。		
成績評価の方法	期末試験及びレポート、授業への参加度（積極性）により評価する。		
履修の留意点	授業にあたり、知的財産権関係の話題を収集する習慣を身に付けておくこと。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4019
科目名	キャリアプランニング I	科目種別	専門
科目名：英語	Career Planning I	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 正明／高橋 直也／田中 俊行／小岩 真佳／王 重予／北條 恭子		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2 単位(20 回)		
授業の到達目標	【目的】 ・ 将来の仕事や働き方の理想を明確にして、目標達成に向けて逆算して計画することで具体的に何をすれば良いのかを理解することが求められる 【到達目標】 ・ 自己分析を通して就職活動に対する自身の軸を見つけることができる。 ・ 企業研究を通して自身の能力をどう活かすことができるのか考えることができる。 ・ 就職活動の流れを把握して積極的に進めることができる。 ・ 自身の働き方について考えることができる		
授業の概要	・ 「就職ガイド」を利用して就活のスケジュールや進め方を理解する ・ ワークシートやウェブサイト等を活用しながら自己分析、企業研究を進める ・ 科内職員による講話		
キーワード			
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 自己分析・・・キャリアプランシート 第 3 回 自己分析・・・やりたいこと、できること、やるべきこと 第 4～6 回 企業研究 第 7 回 自己分析・・・他己分析 ジョハリの窓 第 8～9 回 教員としごとの話 第 10 回 自己PRに繋がる作文演習 第 11 回 企業研究・・・求人票について、企業分析 第 12～13 回 履歴書について 第 14～15 回 電話、メール、面接 第 16～17 回 職業理解 第 18～19 回 自身の働き方と企業選び 第 20 回 まとめ		
教科書、教材等	就職ガイド		
授業の形式	座学、演習		
成績評価の方法	授業態度、提出物、就職活動の進み具合		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4020
科目名	キャリアプランニングⅡ	科目種別	専門
科目名：英語	Career Planning Ⅱ	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 正明／高橋 直也／田中 俊行／小岩 真佳／王 重予／北條 恭子		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2 単位(20 回)		
授業の到達目標	【目的】 ・ 就業に必要となる知識・技能・態度が身についていることが求められる。 【到達目標】 ・ 進路に合わせたポートフォリオ（作品帳）が作成できる。 ・ 就職試験に向けた準備ができる。 ・ 就業に向けた準備ができる。		
授業の概要	・ 進路に合わせたポートフォリオの制作 ・ 就職ガイド等を活用しながら履歴書の書き方や試験対策を行う ・ 面接練習を行う ・ ワークシートやウェブサイト等を活用しながらキャリアプランニングや企業分析を行い、就職活動の準備を行う。		
キーワード	キャリア、就職活動、ポートフォリオ		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 第 2～4 回 ポートフォリオの確認 第 5～7 回 筆記試験対策 第 8～10 回 実技試験対策 第 11～13 回 面接試験対策 第 14 回 労働契約について 第 15～19 回 内定から就業までの準備について 第 20 回 まとめ		
教科書、教材等	就職ガイド		
授業の形式	座学、演習		
成績評価の方法	授業態度、提出物、就職活動の進み具合		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4021
科目名	製品デザイン論 I	科目種別	専門（生活製品必取得）
科目名：英語	Theory of Product Design I	所属	産業デザイン科
担当教員名	田中 俊行		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2 単位(20 回)		
授業の到達目標	【目的】 ・ 製品をデザインするためのアイデア発想や表現方法・調査分析等を習得し、生活者の視点に立ったものづくりの在り方を理解することが求められる 【到達目標】 ・ 製品デザインの位置づけと意味を理解できる ・ 基本的なデザイン開発ができる ・ 製品デザインワークの基本的考え方ができる ・ デザインプロセスと各作業が理解できる		
授業の概要	・ 製品デザインのプロセスを学ぶ ・ 製品開発の様々な手法や考え方のルールを学ぶ ・ 情報を集め処理するための方法などを学ぶ ・ 開発のためのツールを学ぶ ・ デザイナーの在り方を学ぶ		
キーワード	デザイン アイデア 表現 プレゼンテーション		
授業計画	第 1 回 講義の概要 第 2 回 ワークフロー 第 3 回 ヒアリングと目的・ゴール設定（生活製品） 第 4 回 ヒアリングと目的・ゴール設定（情報伝達） 第 5 回 調査・分析・考察 第 6 回 アイデア 第 7 回 コンセプト-1 第 8～11 回 アイデア展開・手法、演習 第 12 回 問題と課題、定義、仮説、作業分解 第 13 回 試作・モックアップ・プロトタイプ 第 14～15 回 デザイン思考 第 16 回 プレゼンテーション 第 17 回 ユーザー中心のデザイン（UCD）ユニバーサルデザイン（UD）、ユーザーインターフェース（UI）、ユーザー体験（UX）、人間工学や認知 第 18 回 環境や社会とデザイン 第 19～20 回 まとめ		
教科書、教材等	自作プリント・スライド等		
授業の形式	座学・演習		
成績評価の方法	レポート、授業への参加度（積極性）による評価。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4022
科目名	製品デザイン論Ⅱ	科目種別	専門
科目名：英語	Theory of Product Design Ⅱ	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 正明／高橋 直也／田中 俊行／小岩 真佳／王 重予／北條 恭子		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位(20回)		
授業の到達目標	【目的】 ・デザイン業務を行うために、デザインプロセスと各段階における手法やツールを理解することが求められる。 【到達目標】 ・デザインプロセスにおける各作業ができる ・デザインを一人で遂行できる		
授業の概要	・人々の役に立つ製品デザインとは何かを学ぶ ・各コースにおけるデザイン開発手法や考え方のルールを学ぶ ・各コースにおけるデザイン開発のプロセスとその手法を学ぶ ・各コースにおけるデザイン開発のツールを効率よく駆使することを学ぶ ・各コースにおけるデザイナーの在り方を学ぶ		
キーワード	デザインプロセス CAD 3DCG DTP 文字組 UI UX イメージワーク 観察		
授業計画	【生活製品コース】 第 1 回 授業内容の紹介 第 2 回 生活製品のデザインとは 第 3～5 回 CAD の概要と演習 第 6～8 回 デザイン制作に使用する道具と製作作業 第 9～13 回 木材の加工法、電動工具の使い方 第 14・15 回 発想力・連想力トレーニング 第 16～19 回 製品デザインの事例 第 20 回 まとめ 【情報伝達コース】 第 1 回 授業内容の紹介 第 2 回 情報伝達とは 第 3～7 回 組版、Adobe InDesign の基本操作 第 8～13 回 情報の表現 第 14・15 回 発想力・連想力トレーニング 第 16～19 回 情報伝達デザインの事例 第 20 回 まとめ		
教科書、教材等	自作プリント・スライド等		
授業の形式	コース別座学・演習		
成績評価の方法	レポート、授業への参加度（積極性）による評価。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4023
科目名	実践デザイン論	科目種別	専門
科目名：英語	Theory of Practical Design	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 正明／高橋 直也／田中 俊行／小岩 真佳／王 重予／北條 恭子		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2 単位(20 回)		
授業の到達目標	【目的】 ・ デザイン業務を行うために、実践的な業務プロセスを理解していることが求められる。 【到達目標】 ・ 各デザイン分野の実践的な業務プロセスが理解できる		
授業の概要	各専攻ごとに実施する。 【生活製品コース】 (工業専攻) ・ 工業製品のデザイン業務について、実践的なプロセスと手法について学ぶ (工芸専攻) ・ 工芸品のデザイン業務について、実践的なプロセスと手法について学ぶ 【情報伝達コース】 (印刷専攻) ・ 印刷媒体のデザイン業務について、実践的なプロセスと手法を学ぶ (ウェブ専攻) ・ ウェブ媒体のデザイン業務について、実践的なプロセスと手法を学ぶ		
キーワード	製品計画 プロトタイプ 広告 媒体 マーケティング		
授業計画	【生活製品コース】 第 1 回 授業内容の紹介 第 2～7 回 生活の製品デザイン① 第 8～13 回 生活の製品デザイン② 第 14～19 回 生活の製品デザイン③ 第 20 回 まとめ 【情報伝達コース】 第 1 回 授業内容の紹介 第 2～19 回 情報伝達のデザイン 第 20 回 まとめ		
教科書、教材等	自作プリント・スライド等		
授業の形式	コース別座学・演習		
成績評価の方法	レポート、授業への参加度（積極性）による評価。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4024
科目名	視覚伝達デザイン	科目種別	専門（情報伝達必取得）
科目名：英語	Theory of Visual Communication Design	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 正明		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	【目的】 ・ 広告や広報などの活動を行うにあたって、視覚伝達媒体のより効果的な活用手法を理解していることが求められる 【到達目標】 ・ 視覚伝達の目的や手段を理解できる ・ 目的に応じた適切な視覚伝達手段を用いることができる		
授業の概要	・ 基本的なレイアウトのルール解説とその実践 ・ タイポグラフィ（書体の知識、文字組） ・ ピクトグラム・アイコンなどの文字に頼らない伝達手法 ・ 図版（写真・イラストレーション）の扱い方 ・ DTP の概要と印刷の種類 ・ 視覚伝達媒体の種類		
キーワード	グラフィック、文字、写真、伝達媒体		
授業計画	第 1 回 授業内容の紹介 第 2～7 回 レイアウトの基礎 第 8～10 回 文字と文字組 第 11～13 回 情報を見える化する 第 14・15 回 図版 第 16 回 印刷・DTP 第 17・18 回 視覚伝達媒体 第 19 回 期末試験 第 20 回 まとめ		
教科書、教材等	デザインを学ぶ グラフィックデザイン基礎 改訂版（出版：エムディエヌコーポレーション） 自作プリント		
授業の形式	教科書及び自作プリントに従って授業を進める。		
成績評価の方法	期末試験及びレポート、授業への参加度（積極性）により評価する。		
履修の留意点	デザイン概論の内容を理解していることを前提として進める。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4025
科目名	ウェブデザイン概論	科目種別	専門（情報伝達必取得）
科目名：英語	Introduction to Web Design	所属	産業デザイン科
担当教員名	小岩 真佳		
開講学期／単位数	I 期／2 単位(20 回)		
授業の到達目標	【目的】 ・ 現代、どんな業務においてもウェブで情報発信をする機会が多くなっており、ウェブサイトの仕事みや基礎的なウェブデザインに関する知識が必要である 【到達目標】 ・ インターネット環境の基本的なことが理解できる ・ HTML とスタイルシートを使って簡単なウェブサイトを構築できる ・ ウェブサイトにつかわれるデータを適切に編集・使用できる ・ ウェブサイト構築、ウェブデザイン、ウェブプログラミングなど、情報発信にかかる業務への就職を検討することができる		
授業の概要	・ ウェブサイトを構築するための技術について、基本的なことを学ぶ ・ ウェブサイトの仕組みを学ぶ ・ インターネットの仕組みを学ぶ ・ ウェブサイト構築の流れを学ぶ ・ ウェブサイトのデータを制作するための技術について学ぶ ・ ウェブサイトに使われるデータの編集方法を学ぶ ・ ウェブサイトを通して、どのような情報発信が可能になるのかを学ぶ		
キーワード	ウェブ、サイト、ホームページ、インターネット、HTML、CSS		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 第 2～3 回 ウェブサイトの仕組み 第 4 回 ユーザーインターフェースについて 第 5 回 ブロックコーディングの考え方 第 6～9 回 HTML の基礎（文書の構造化） 第 10～13 回 スタイルシートの基本 第 14 回 ファイルのリンク、データの種類、画像の種類と特徴 第 15 回 ワイヤフレーム・モックアップについて 第 16～17 回 プログラム・JavaScript の取り入れ方 第 18～20 回 期末試験、まとめ		
教科書、教材等	Web 制作必携 HTML&CSS 全事典（著：加藤善規、出版：株式会社インプレス）、自作プリント		
授業の形式	教科書及び自作プリントによって授業を進める。		
成績評価の方法	期末試験（学科・実技）、授業への参加度（積極性）で評価する。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4026
科目名	製品計画論	科目種別	専門（生活製品必取得）
科目名：英語	Theory of Product Planning	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 正明／高橋 直也／田中 俊行／小岩 真佳／王 重予／北條 恭子		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2 単位(20 回)		
授業の到達目標	【目的】 ・ マーケティングやデザイン思考の基本を理解し、ユーザー中心の考え方をもとに、製品・サービスの企画を立案できる能力が求められる 【到達目標】 ・ マーケティングの基本的な流れが理解できる ・ デザイン思考の基本的な内容を理解できる ・ ユーザーを中心としたデザインの考え方ができる ・ ユーザーを意識した製品、商品・サービスの企画立案ができる ・ 内部環境、外部環境の分析ができる ・ 産業、経済の動向を踏まえた考え方ができる ・ アイデア手法を活用しアイデアの展開ができる ・ 目的に応じたコンセプト設定ができる ・ 製品、商品・サービスのプロモーションができる ・ 広告戦略、販売戦略などを考えられる ・ 卒業研究のテーマ策定、企画立案ができる		
授業の概要	・ ユーザーやマーケット（市場）を考慮した、製品、商品・サービス開発の重要性を学ぶ ・ ユーザーやマーケット（市場）を考慮した、広告・宣伝、広報、販売の流れを学ぶ ・ デザイン思考とマーケティングの基礎的な知識を学ぶ ・ マーケティングの基本的な手法を学ぶ ・ デザイン思考の流れを学ぶ ・ デザイン思考やマーケティングを活用し、製品、商品・サービスの企画を立案する流れを学ぶ ・ 製品、商品・サービスの企画の事例を学ぶ		
キーワード	デザイン思考、マーケティング、製品デザイン、コンセプト、購買行動、消費者心理		
授業計画	第 1 回 授業内容の紹介（オリエンテーション） 第 2～4 回 デザイン思考 第 5 回 マーケティングとは 第 6 回 調査・環境分析 第 7～8 回 STP 第 9～12 回 マーケティングミックス（4 つの C と 4 つの P） 第 13 回 戦略と戦術、コンセプト 第 14 回 顧客の満足 第 15 回 社会的責任 第 16 回 現在とこれからのマーケティング 第 17 回 デジタルマーケティング 第 18 回 マーケティングの用語 第 19, 20 回 まとめ		
教科書、教材等	発想から実践まで デザインの思考法図鑑（出版：ソシム）、自作プリント		
授業の形式	自作プリントに従って授業を進める。		
成績評価の方法	レポート及び授業への参加度（積極性）で評価する。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4027
科目名	感性工学	科目種別	専門
科目名：英語	Kansei Engineering	所属	産業デザイン科
担当教員名	小岩 真佳		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2 単位 (20 回)		
授業の到達目標	【目的】 ・ デザインの仕事ではユーザーエクスペリエンスが重視されるため、感性についての知識や人間工学、評価法の知識が求められる 【到達目標】 ・ 人間とその感性が理解できる ・ 感性工学の手法を活用し、より快適なデザインができる		
授業の概要	・ ものづくりにおける人との関係性を学ぶ ・ ものに対して快適性を実現する必要性を学ぶ ・ 人間とその感性について工学的な知識を習得する ・ 感性工学をデザイン開発に導入するための手法を学ぶ		
キーワード	感性、人間工学、ライフスタイル、エラー		
授業計画	第 1 回 感性工学の概要 第 2 回 感性工学と人間工学 第 3 回 人体と動作 第 4～6 回 人間・機械系 第 7 回 使いやすさ 第 8～9 回 ヒューマン・エラー 第 10～11 回 エクスペリエンスデザイン 第 12～14 回 評価方法：SD 法、実習 第 15 回 評価方法：ラフ集合 第 16 回 インターフェースデザインの心理学 第 17 回 五感のデザイン、知覚 第 18 回 試験対策 第 19 回 期末試験 第 20 回 まとめ		
教科書、教材等	自作プリント		
授業の形式	座学・演習		
成績評価の方法	期末試験、レポート、授業への参加度（積極性）による評価。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4028
科目名	材料加工法	科目種別	専門
科目名：英語	Materials Processing Method	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 正明／高橋 直也／田中 俊行／小岩 真佳／王 重予／北條 恭子		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	【目的】 ・ 製品デザインにおいて、製品に使用される材料の加工方法についての知識が求められる 【到達目標】 ・ デザイン材料で学んだ個々の材料の組成や特性を踏まえ、実際に加工する際の技術的な方法や加工時の特性、加工方法を知っている ・ 製品デザインにおける材料選定の知識だけでなく、製造工程で必要とされるこれらの能力を養うことにより、より効率的なデザインができる		
授業の概要	・ デザイン制作実習の準備のための講義として位置づけ、デザイン材料で学んだ個々の素材について、材料が製品として形作られる加工工程を講義する。 ・ 加工に使用される各種工具、工作機械の使用方法について講義する。		
キーワード	成型加工、プラスチック、印刷、用紙		
授業計画	第 1 回 授業内容の紹介 第 2,3 回 DTP 第 4～6 回 木材加工 第 7～9 回 製本 第 10,11 回 写真撮影 第 12,13 回 組版 第 14～17 回 シルクスクリーン印刷 第 18,19 回 塗装 第 20 回 まとめ		
教科書、教材等	自作プリント・スライド等		
授業の形式	座学・演習		
成績評価の方法	レポート、授業への参加度（積極性）による評価。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4029
科目名	環境デザイン	科目種別	専門
科目名：英語	Theory of Environmental Design	所属	産業デザイン科
担当教員名	王 重予		
開講学期／単位数	Ⅳ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	【目的】 ・ 環境デザインと現代生活の関連性を理解し、デザインの可能性を探る能力が求められる。 【到達目標】 ・ 人々が生活する場が環境デザインの領域であることを知る ・ それらの様々な関係性が理解できる ・ 「関わり」と「快適」をキーワードとして考察し、個々のデザインに応用できる		
授業の概要	・ インテリアデザイン、建築デザイン、ランドスケープデザインなどの領域について現状を学ぶ ・ それぞれの関連性や問題点を考察する ・ 演習を通じてデザインの可能性や自らのデザインとの関わりを模索する		
キーワード	インテリア、建築、空間デザイン、都市、ランドスケープ、コミュニティ		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 第 2～3 回 間取りについて 第 4～5 回 インテリア・家具 第 6～7 回 照明・光の効果 第 8 回 商業空間 第 9～10 回 ディスプレイデザイン 第 11～13 回 サインデザイン 第 14 回 公共空間のデザイン 第 15～16 回 ランドスケープデザイン・公園・景観デザイン 第 17 回 環境問題・SDG s 第 18 回 コミュニティデザイン 第 19 回 期末試験 第 20 回 まとめ		
教科書、教材等	自作プリント		
授業の形式	自作プリントに従って授業を進める。		
成績評価の方法	提出課題、期末試験、授業への参加度（積極性）による評価。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4030
科目名	視覚伝達計画	科目種別	専門（情報伝達必取得）
科目名：英語	Planing for Visual Communication Design	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 正明		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	【目的】 ・ 企業活動において競合他社との差別化を図る手法の一つであるブランディングについて理解していることが求められる 【到達目標】 ・ ブランディングの意義と役割について理解できる ・ ブランディングのプロセスについて理解できる ・ ブランディングとマーケティングの違いとその完成性について理解できる		
授業の概要	・ ブランディングとは何か？ ・ ブランディングの考え方 ・ ブランディングの進め方 ・ ブランディングの事例		
キーワード	ブランディング、企業、CI、ロゴマーク、情報伝達、広告、広報		
授業計画	第 1 回 講義内容の紹介 第 2～5 回 ブランディングデザイナーという仕事 第 6～10 回 ブランディングデザインの考え方 第11～16 回 ブランディングデザインの進め方 第 17 回 期末試験前のまとめ 第 18 回 期末試験 第 19～20 回 まとめ		
教科書、教材等	ブランディングデザインの教科書（出版：パイインターナショナル） 自作プリント		
授業の形式	教科書及び自作プリントに従って授業を進める。		
成績評価の方法	期末試験及びレポート、授業への参加度（積極性）により評価する。		
履修の留意点	日頃から広告などの観察をすること。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4031
科目名	造形実習	科目種別	専門
科目名：英語	Practical Training for Design Composition	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 直也		
開講学期／単位数	I 期／4 単位（40 回）		
授業の到達目標	【目的】 ・ 平面的・立体的造形におけるデザイン構成について、実践的に表現できる技術が必要である 【到達目標】 ・ 平面上での要素構成ができる ・ 3次元立体の面構成ができる ・ 基礎的造形力をビジュアルおよび立体で表現できる		
授業の概要	・ 平面上でのパターン構成からユニットによる立体構成までを制作する ・ 形を創造する工程を学ぶ ・ 平面構成においては、造形論で学習した内容を実践することで理解を深める ・ 立体構成においては、紙、粘土等の材料を使用することにより、その加工手順や加工技術を理解する		
キーワード	素材、工程、技術		
授業計画	第 1 回 講義内容の紹介 第 2～8 回 平面構成1（線による構成） 第 9～12 回 平面構成2（複合課題） 第 13～18 回 立体構成1（紙による構成） 第 19～26 回 立体構成2（粘土による構成） 第 27～32 回 平面構成3（文字の構成） 第 33～40 回 立体構成3（スタイロフォームによる構成）		
教科書、教材等	当大学校が支給する材料		
授業の形式	実習		
成績評価の方法	課題制作物、進捗度合い等を基に総合的に評価する。		
履修の留意点	実習に適した服装とする。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4032
科目名	伝統工芸実習	科目種別	専門
科目名：英語	Practical Experience of Traditional Craft works	所属	産業デザイン科
担当教員名	田中 俊行／王 重予		
開講学期／単位数	Ⅲ期／4 単位（40 回）		
授業の到達目標	【目的】 ・ 伝統工芸に深く関わる木工、鋳造、漆工の工程や技法を体験し、丁寧に製品を仕上げることの大切さを理解することが求められる 【到達目標】 ・ 木工、漆工、鉄器（鋳造）の基礎的な作業ができる ・ 伝統工芸技術の合理性と機能性、造形の美しさを理解している		
授業の概要	【木工】 ・ 規定の材料を用いて小物入れを製作する ・ 木工技法と作業の流れのほか、道具の使用方法や加工技術について修得する 【漆工】 ・ 拭き漆技法による塗装を行う ・ 漆工技法と作業の流れを学ぶ ・ 道具や原材料の扱い方を修得する 【鋳造】 ・ 低融点金属（ピューター）を用い、鋳造技法によってペーパーウェイトを製作する ・ 原型製作、鋳造、仕上げまで、鉄器鋳造と同様の一貫した工程を体験する ・ 鋳造技法と作業の流れのほか、道具の扱い方や原材料についても修得する		
キーワード	伝統工芸、木工、漆工、鉄器、鋳造		
授業計画	第 1 回 実習内容の紹介 【木工】 第 2～6 回 木取り、墨付け 第 7～16 回 加工、組み立て 【木工2】 第 33～40 回 箸の製作・表札の製作（鋳造作業と同時進行） 【漆工】 第 17～18 回 木地調整 第 23～24 回 目止め、下地とぎ、着色 第 19～28 回 木地固め、摺り漆実習（外部講師） 【鋳造】 第 29～30 回 原型データ作成 第 31～34 回 原型製作 第 35～38 回 鋳込み・仕上げ作業		
教科書、教材等	課題及び自作プリント資料		
授業の形式	体験型課題制作による実習		
成績評価の方法	提出課題作品及び授業への参加度（積極性）。		
履修の留意点	作業に適した服装で授業に臨むこと。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4033
科目名	デッサン	科目種別	専門
科目名：英語	Dessin	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 直也		
開講学期／単位数	I 期／3 単位(30 回)		
授業の到達目標	【目的】 - 鉛筆による正確な描画を通して、造形物の佇まいや質感・量感について、正確な観察把握をする能力が求められる 【到達目標】 - あらゆる造形行為の基礎となる物の構造、形態、質感、空間を適切に観察し、基礎的な能力を養い、描写することができる		
授業の概要	- 鉛筆デッサンを中心に対象を観察して正確に描写する訓練を行う - 実物を見なくてもイメージしたものが表現できる描写力を身につける 基礎編 鉛筆の削り方、描画方法、構図、構造理解 応用編①細密表現、空間表現 応用編②想定表現		
キーワード	構造、形態、質感、空間		
授業計画	第 1～2 回 オリエンテーション・デッサン基礎 第 3～8 回 幾何形石膏模型デッサン 第 9～16 回 静物デッサン 第 17～20 回 屋外デッサン 第 21～26 回 空間デッサン 第 27～30 回 想定デッサン		
教科書、教材等	自作プリント、画材		
授業の形式	実習		
成績評価の方法	作品課題、授業への積極性で評価する。		
履修の留意点	鉛筆デッサン用具を使用する。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4034
科目名	色彩実習	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Practical Training for Color	所属	産業デザイン科
担当教員名	王 重予		
開講学期／単位数	I 期／4 単位(40 回)		
授業の到達目標	【目的】 ・ 色彩を扱う際に理論に基づき、意図をもった配色計画が求められる 【到達目標】 ・ 「色彩学」で学んだ理論に基づいた課題制作ができる ・ 相手の立場をふまえて客観的な視点で配色を行うことができる ・ 様々な配色トレーニングで感覚を養い、課題制作に活かすことができる ・ 「仕上がりの美しさ」を意識できる素養を身につける		
授業の概要	・ 色彩の三属性の理論を用いた検証・課題制作 ・ 配色効果の理論を用いた検証・課題制作 ・ 対比の理論を用いた検証・課題制作 ・ 混色の理論を用いた検証・課題制作 ・ 用具の使用方法を含めた制作技法の習得		
キーワード	色、色彩、理論、混色、素材、配色		
授業計画	第1～3回 オリエンテーション、混色練習 第4～10回 色彩構成 第11～14回 色材の三原色による色の分解と再構築 第15～22回 ポスタリゼーション（無彩色） 第23～28回 ポスタリゼーション（有彩色） 第29～40回 色のイメージ表現（理論的配色計画）		
教科書、教材等	自作プリント、彩色用具		
授業の形式	課題作品制作による実習		
成績評価の方法	作品課題および課題レポート、授業への参加度（積極性）にて評価する		
履修の留意点	画材は初回のみ各自で用意。その他の用具は、大学校のものを使用。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4035
科目名	デザイン製図	科目種別	専門
科目名：英語	Drafting for Design	所属	産業デザイン科
担当教員名	王 重予		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2 単位 (20 回)		
授業の到達目標	【目的】 ・ 製図の基本知識と図法表現を理解し、作図できる能力、そして製図用具を適切に使用する能力が求められる。 【到達目標】 ・ 製図の基本的な知識と図法表現を知っている ・ 立体と図面の関係が理解できる ・ 三面図から投影図が描ける ・ 投影図から三面図が作図できる ・ 製図用具を使うことができる		
授業の概要	・ 各投影法、製図通則について学ぶ ・ 演習課題により、基礎的な技術と表現方法を学ぶ ・ 図面と立体の関係を理解する		
キーワード	製図用具、三面図、投影法		
授業計画	第 1 回 授業内容の紹介 第 2～3 回 立体の平面展開 第 4～14 回 正投影法（三面図）模型製作 第 15～16 回 一点透視法と二点透視法 第 17～20 回 等角投影法		
教科書、教材等	自作プリント・図面サンプル		
授業の形式	課題作品制作による実習		
成績評価の方法	期末試験、提出課題及び実習への参加度（積極性）による評価。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4036
科目名	マルチメディア実習	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Practical Training for DTP	所属	産業デザイン科
担当教員名	北條 恭子		
開講学期／単位数	I 期／4 単位（40 回）		
授業の到達目標	【目的】 ・ デザインの現場では効率的な作業とオペレーション技術、適切なデザインの提案が求められるため、基礎的なソフトウェアの操作技術や画像加工、レイアウトの技術が必要 【到達目標】 ・ パーソナルコンピュータの基本操作ができる ・ 各種アプリケーションを操作できる ・ DTP で印刷物等のデータを作成できる		
授業の概要	・ Macintosh の基本操作 ・ Adobe Illustrator の基本操作 ・ Adobe Photoshop の基本操作 ・ 課題「印刷物」制作		
キーワード	Illustrator、Photoshop、画像加工、DTP、印刷、インターネット		
授業計画	第 1,2 回 授業内容の紹介/パソコン・インターネット関係の基本操作 第 3～10 回 Adobe Illustrator の基本操作 第 11～16 回 Adobe Photoshop の基本操作 第 17～20 回 課題「パッケージ」 第 21～28 回 課題「ネームカード（ロゴトレース、文字組）」 第 29～34 回 課題「情報伝達媒体の作成-1（画像加工、文字組、レイアウト）」 第 35～40 回 課題「情報伝達媒体の作成-2（画像加工、文字組、レイアウト）」		
教科書、教材等	世界一わかりやすい Illustrator&Photoshop 操作とデザインの教科書 （出版：(株)技能評論社）		
授業の形式	教科書に従ってソフトウェアの操作方法の解説を行い、演習を行う。		
成績評価の方法	提出課題及び授業への参加度（積極性）にて評価する。		
履修の留意点	Machintosh ならびにコンテンツ制作のためのアプリケーションの使い方の基礎となるので、授業以外の時間にも復習してできるだけ早く使用方法を習得すること。 関連科目：マルチメディア概論		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4037
科目名	製品デザイン基礎実習 I	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Basic Design Training I	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 正明／高橋 直也／田中 俊行／小岩 真佳／王 重予／北條 恭子		
開講学期／単位数	I 期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	【目的】 ・ 業界・企業・職種理解を深め、自分のやりたいことや適性を見極め、働くイメージを膨らませることが必要である 【到達目標】 ・ 各分野の職業現場を体験することにより、職業選択の際の情報の一つとする		
授業の概要	・ それぞれの職種に合った企業等において、インターンシップを行う		
キーワード			
授業計画	第 1～20 回 インターンシップ		
教科書、教材等			
授業の形式	現場実習		
成績評価の方法	取り組み（積極性）による評価。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4038
科目名	製品デザイン基礎実習Ⅱ	科目種別	専門（必取得）
科目名：英語	Basic Design TrainingⅡ	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 正明／高橋 直也／田中 俊行／小岩 真佳／王 重予／北條 恭子		
開講学期／単位数	Ⅱ期／11 単位（110 回）		
授業の到達目標	【目的】 ・ デザイン制作を行うために、デザインプロセスを実行でき、各段階において手法やツールを適切に活用できることが求められる。 【到達目標】 ・ 製品デザイン論・視覚伝達デザインで学んだ知識をデザイン制作に活かせる ・ 各分野におけるアイデアの具現化や検討ができる ・ 各種デザイン技法が使用できる		
授業の概要	【生活製品コース】 ・ 製品デザインの基本的なプロセスと基礎的な制作手法を修得する 【情報伝達コース】 制作における一連の流れ（調査、分析、アイデアスケッチ、制作、プレゼンテーション、まとめ）の実践 （印刷専攻） ・ 情報量と印刷物の判型・種類の関係を理解する ・ 目的に応じた情報整理、イメージ設計、レイアウトを学ぶ ・ 印刷物制作の基礎的な制作手法を実践する （ウェブ専攻） ・ ウェブサイト制作の基本的な流れを学ぶ ・ サイト計画（設計、ワイヤーフレーム、モックアップ）を意識したデザインプロセスを実践する ・ クライアントサイドプログラムについて学ぶ ・ サーバサイドプログラムについて学ぶ		
キーワード	企画、アイデア、制作、プレゼンテーション		
授業計画	【生活製品コース】 第 1 回 授業内容の紹介 第 2 ～ 20 回 課題 1 文房具のデザイン 第 41 ～ 70 回 課題 2 スツールのデザイン 第 71 ～ 109 回 課題 3 小型家電のデザイン 第 110 回 まとめ 【情報伝達コース】 第 1 回 授業内容の紹介 第 2 ～ 20 回 課題 1 飲食店のデザイン 第 21 ～ 55 回 課題 2 産技短展広報のデザイン 第 56 ～ 60 回 特別課題 1 ポスターのデザイン 第 61 ～ 80 回 課題 3 小冊子のデザイン 第 81 ～ 109 回 課題 4 ウェブサイトのデザイン 第 110 回 まとめ		
教科書、教材等	課題及び自作プリント資料		
授業の形式	コース別の課題制作とプレゼンテーションによる実習		
成績評価の方法	プレゼンテーション、提出課題及び実習への参加度（積極性）による評価。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4039
科目名	製品デザイン応用実習	科目種別	専門
科目名：英語	Applied Design Training	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 正明／高橋 直也／田中 俊行／小岩 真佳／王 重予／北條 恭子		
開講学期／単位数	Ⅲ期／17 単位（170 回）		
授業の到達目標	【目的】 ・ デザイン業務において、企画立案から制作、提案までのディレクション及びデザイン制作ができるスキルが求められる。 【到達目標】 ・ 各分野のデザインにおける幅広い視野と思考力を修得する ・ 問題解決のための企画立案ができる ・ 制作に必要な情報の収集と活用ができる ・ 各種デザイン技法の高度な使い方ができる ・ 制作物のプレゼンテーションができる		
授業の概要	【生活製品コース】 ・ 製品に求められる社会ニーズを考慮し、応用技法を活用したデザイン制作を修得する 【情報伝達コース】 ・ 情報伝達ツールを用い、企画から提案までの実践的な手法について修得する		
キーワード	企画、アイデア、制作、プレゼンテーション		
授業計画	【生活製品コース】 第 1 回 授業内容の紹介 第 2 ～ 50 回 課題 1 箱物家具 第 51 ～100 回 課題 2 文房具 第 101～140 回 課題 3 学園祭企画提案 第 141～189 回 課題 4 いわての衣食住 第 190 回 まとめ 【情報伝達コース】 第 1 回 授業内容の紹介 第 2 ～ 50 回 課題 1 学生募集・オープンキャンパス広報制作 第 51 ～100 回 課題 2 商品ブランディング 第 101～140 回 課題 3 学園祭企画提案 第 141～189 回 課題 4 いわての衣食住 第 190 回 まとめ		
教科書、教材等	課題及び自作プリント資料		
授業の形式	コース別の課題制作とプレゼンテーションによる実習		
成績評価の方法	プレゼンテーション、提出課題及び実習への参加度（積極性）による評価。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4040
科目名	視覚伝達デザイン実習	科目種別	専門
科目名：英語	Practical Training for Visual Communication Design	所属	産業デザイン科
担当教員名	小岩 真佳		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位（20回）		
授業の到達目標	【目的】 - デザインの現場ではクライアントからの依頼に対して意図をくみ取った情報設計の能力と視覚的に伝えたいことを伝える表現力が求められる 【到達目標】 - ウェブデザイン概論、視覚伝達デザインで学んだことを活用し、より踏み込んだウェブサイトの構築やデータ制作ができる - サイト設計、計画を考慮したサイト制作ができる - サイトマップ、ワイヤーフレームなどの、情報設計を考えられる - 閲覧者を考慮したサイト構成、構築、情報発信ができる - 目的に応じた視覚伝達表現ができる - 各自のポートフォリオ（ウェブサイト）を作成することができる		
授業の概要	- 印刷物とウェブサイトを用いて、自身のポートフォリオを発信する準備を行う - ウェブデザイン概論で学んだサイト構築の基本を踏まえ、より踏み込んだサイト構築を行う - 視覚伝達デザインで学んだことを踏まえ、サイト閲覧者を見る者を考慮したレイアウト、文字組などを行う - サイト構築の計画の立て方を学ぶ - 公開・使用を想定したサイト制作 - 伝えたい内容に応じたページ構成や編集		
キーワード	ポートフォリオ、ポートフォリオサイト、ウェブサイト、ホームページ、インターネット、HTML、CSS、編集、レイアウト、文字組		
授業計画	第 1 回 授業内容の紹介 第 2 回 情報設計（ポートフォリオ、ポートフォリオサイトの目的） 第 3 回 情報の流れ-ポートフォリオの設計（コンテンツマップ・台割） 第 4 回 情報のレイアウト（構造設計） 第 5 回 サイト設計 -1（スケッチ） 第 6 回 サイト設計 -2（ワイヤーフレーム、モックアップ） 第 7 回 サイト設計 -3（制作の準備） 第 8～18 回 課題「ポートフォリオ（サイト）の制作」（計画～レイアウト） 第 19 回 ファイル転送（FTP） 第 20 回 まとめ		
教科書、教材等	Web 制作必携 HTML&CSS 全事典（著：加藤善規、出版：株式会社インプレス）、自作プリント		
授業の形式	自作プリント、課題制作で授業を進める。		
成績評価の方法	課題提出作品、授業への参加度（積極性）で評価する。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4041
科目名	ウェブデザイン実習	科目種別	専門
科目名：英語	Practical Training for Web Design	所属	産業デザイン科
担当教員名	小岩 真佳		
開講学期／単位数	I 期／2 単位 (20 回)		
授業の到達目標	【目的】 ウェブデザインの仕事では HTML と CSS の仕組みを理解し、データを適切に扱う技術が求められる 【到達目標】 ・ HTML とスタイルシートを使って簡単なウェブサイト構築できる ・ ウェブサイトにつかわれるデータを適切に編集・使用できる ・ ウェブサイト構築、ウェブデザイン、ウェブプログラミングなど、情報発信にかかる業務への就職を検討することができる		
授業の概要	・ ウェブサイトを構築するための技術について、基本的なことを学ぶ ・ ウェブサイトの仕組みを学ぶ ・ インターネットの仕組みを学ぶ ・ ウェブサイト構築の流れを学ぶ ・ ウェブサイトのデータを制作するための技術を、実習を通して習得する ・ ウェブサイトに使われるデータの編集をする ・ ウェブサイトを通して、どのような情報発信が可能になるのかを学ぶ		
キーワード	ウェブ、サイト、ホームページ、インターネット、HTML、CSS		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション、制作環境を整える 第 2～3 回 サンプルサイトの制作～HTML の基本～ 第 4～6 回 サンプルサイトの制作～CSS の基本～ 第 7 回 サンプルサイトの制作～レスポンス対応～ 第 8 回 フルスクリーンレイアウトの制作 第 9 回 フレックスボックスレイアウトの制作 第 10 回 シングルカラムレイアウトの制作 第 11 回 グリッドレイアウトの制作 第 12 回 2 カラムレイアウトの制作 第 13～20 回 自己紹介ページの制作		
教科書、教材等	HTML&CSS と Web デザインが 1 冊でちゃんと身につく本[増補改訂版]（著：服部雄樹、出版：技術評論社）、自作プリント		
授業の形式	教科書及び自作プリントによって授業を進める。		
成績評価の方法	提出物、授業への参加度（積極性）で評価する。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4042
科目名	プレゼンテーション実習	科目種別	専門
科目名：英語	Practical Training for Presentation	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 正明／高橋 直也／田中 俊行／小岩 真佳／王 重予／北條 恭子		
開講学期／単位数	Ⅳ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	【目的】 - デザイン業務において、社内関係者やクライアントに対して制作意図を伝達できるスキルが求められる。 【到達目標】 - 生活製品、情報伝達の各分野において、プレゼンテーションにより制作意図を伝達することができる		
授業の概要	「卒業研究」とあわせて実施する - デザインワークにおけるデジタルツールの利用法を修得する - プレゼンテーション用アプリケーション操作を学ぶ - グラフィックデザイン系アプリケーションやCAD・CGのデータ活用について学ぶ		
キーワード	卒業研究 プレゼンテーション		
授業計画	第 1 回 授業概要説明 第 2～6 回 MS PowerPoint、Apple Keynote の基本操作 第 7～10 回 演習 第 11 回 デジタルデータの活用 第 12～14 回 MS PowerPoint、Apple Keynote の応用操作 第 15～19 回 演習課題 第 20 回 プレゼンテーション		
教科書、教材等			
授業の形式	「卒業研究」発表におけるプレゼンテーション		
成績評価の方法	作品、プレゼンテーション技法及び授業への参加度（積極性）。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4043
科目名	モデル制作実習	科目種別	専門
科目名：英語	Practical Training for Modeling	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 正明／高橋 直也／田中 俊行／小岩 真佳／王 重予／北條 恭子		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	【目的】 ・ デザイン評価のためのモデルやカンブを制作するスキルが求められる。 【到達目標】 ・ 各専攻において必要とされるモデルやカンブを制作することができる。		
授業の概要	「製品デザイン応用実習」とあわせて実施する 【生活製品コース】 ・ モデル製作に用いる各種成形技法を修得する 【情報伝達コース】 （共通） ・ 情報伝達にかかる制作物の試作、製作手法を修得する （印刷専攻） ・ 印刷技術を活用した製品製作の手法を修得する。 （ウェブ専攻） ・ プログラミング言語を活用したサイト構築の手法を学ぶ		
キーワード	モデル制作、デザイン評価		
授業計画	【生活製品コース】 第 1 回 内容の紹介 第 2～5 回 シリコン 第 6～10 回 注型樹脂 第 11～20 回 FRP 【情報伝達コース】 （印刷専攻） 第 1 回 内容の紹介 第 2～6 回 印刷と出力 第 7～12 回 組版 第 13～20 回 パッケージなどの加工 （ウェブ専攻） 第 1 回 内容の紹介 第 2～10 回 PHP/MySQL 第 11～15 回 JavaScript 第 16～20 回 ライブラリ、フレームワーク		
教科書、教材等			
授業の形式	「製品デザイン応用実習」とあわせて実施する実習。		
成績評価の方法	作品、技法及び授業への参加度（積極性）。		
履修の留意点	作業に適した服装で授業に臨むこと。		
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4044
科目名	材料加工実習	科目種別	専門
科目名：英語	Practical Training for Material Processing	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 正明／高橋 直也／田中 俊行／小岩 真佳／王 重予／北條 恭子		
開講学期／単位数	Ⅱ期／2単位(20回)		
授業の到達目標	【目的】 ・ 製品デザインにおいて、製品に使用される材料を加工する技能が求められる 【到達目標】 ・ 製作目的に最適な材料が選定できる ・ 具体的な加工材料にはどのような方法があるかを知っている		
授業の概要	製作に必要な素材加工の基礎的な知識と技術について修得する。 目的に合った技術及び加工技術について修得する。		
キーワード	材料加工、木材、樹脂、金属、写真、出力、印刷、紙、デジタルデータ		
授業計画	第 1 回 授業内容の紹介 第 2,3 回 DTP 第 4～6 回 木材加工 第 7～9 回 製本 第 10,11 回 写真撮影 第 12,13 回 組版 第 14～17 回 シルクスクリーン印刷 第 18,19 回 塗装 第 20 回 まとめ		
教科書、教材等			
授業の形式	体験型課題制作による実習。		
成績評価の方法	作品、技法及び授業への参加度（積極性）。		
履修の留意点	作業に適した服装で授業に臨むこと。		
参考・推薦図書等			

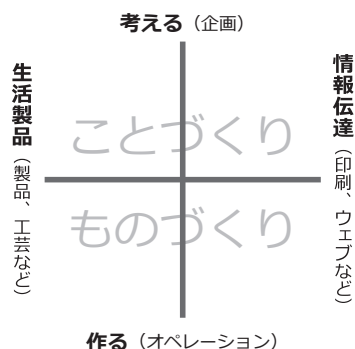
年度	2025	科目番号	4045
科目名	製品計画実習	科目種別	専門
科目名：英語	Practical Training for Product Planning	所属	産業デザイン科
担当教員名	高橋 正明／高橋 直也／田中 俊行／小岩 真佳／王 重予／北條 恭子		
開講学期／単位数	Ⅲ期／2 単位（20 回）		
授業の到達目標	【目的】 ・ 社会課題を発見し、その解決に向けた取り組み方を提案できるスキルが求められる。 【到達目標】 ・ 卒業研究のテーマとして取り組む分野のマーケティングができる ・ 卒業研究の企画立案及びテーマの決定ができる		
授業の概要	・ 卒業研究テーマ設定のための基礎調査を行う ・ 設定したテーマについてプレゼンテーションする		
キーワード			
授業計画	第 1～10 回 マーケティング 第 11～19 回 企画 第 20 回 プレゼンテーション		
教科書、教材等			
授業の形式	学生 3～4 名を担当グループとする指導担当教員ごとに進める。 必要に応じて進行状況の発表を行う。		
成績評価の方法	卒業研究企画書、プレゼンテーション及び参加度（積極性）による評価。		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

年度	2025	科目番号	4046
科目名	卒業研究	科目種別	専門
科目名：英語	Graduation Works	所属	産業デザイン科補強
担当教員名	高橋 正明／高橋 直也／田中 俊行／小岩 真佳／王 重予／北條 恭子		
開講学期／単位数	IV期／29 単位 (290 回)		
授業の到達目標	【目的】 ・ 社会課題を発見し、その解決方法を具体的に提案できるスキルが求められる。 【到達目標】 ・ 問題発見から解決策の構想立案、具体的な提案作成までのデザイン開発ができる ・ これまでに学んだ知識と技術・技能をデザインに応用できる ・ デザイン成果物のプレゼンテーションができる		
授業の概要	・ テーマに関する本調査を行い、調査結果を分析する ・ 企画書を作成し今後の計画と共に中間発表会で発表する ・ 企画書に基づきデザインとモデル制作を行う ・ 研究成果を卒業研究発表会において発表する ・ その結果を研究報告書としてまとめ、提出する ・ 就職に向けて不足している知識、スキルの増強を図る		
キーワード			
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 第 2～20 回 研究計画の作成 第 21～70 回 調査 第 71～110 回 調査のまとめとデザイン 第 111～120 回 中間発表会 第 121～250 回 デザイン及びモデル製作 第 251～270 回 卒業研究発表会 第 271～290 回 卒業制作作品展 第 290～310 回 報告書作成		
教科書、教材等			
授業の形式	学生 3～4 名を担当グループとする指導担当教員ごとに進める。 必要に応じて進行状況の発表を行う。		
成績評価の方法	作品、研究発表、作品展示及び取り組み（積極性）を総合的に評価		
履修の留意点			
参考・推薦図書等			

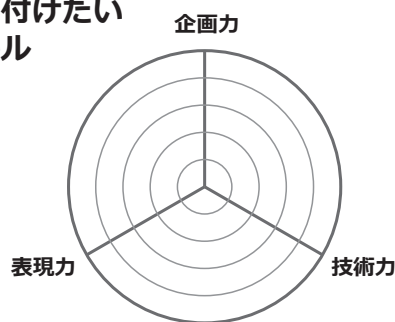
産業デザイン科 2年間の学びのイメージ

専門教科に取り組みながら、自分の進みたい方向を定め、それに必要なスキルを身に付けていきます。

進みたい
方向



身に付けたい
スキル



IV期 仕上げ

自分の専門・
テーマを深める

卒業研究

プレゼンテーション実習

環境デザイン
生産工学
デザイン史
デザイン関係法規

学びを深める知識

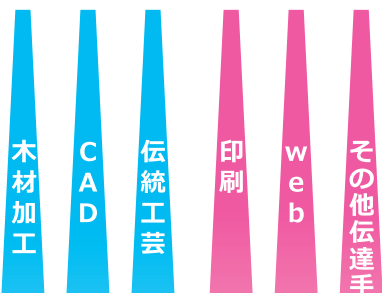
III期

考える
専攻・ジャンルを
横断する企画

+

作る
「作る」の応用
自分の専門を
深める

企画 (考える)



感性工学

モデル製作実習

実践デザイン論

伝統工芸実習

伝統工芸論

キャリア
プランニングⅡ

視覚伝達計画

保健体育Ⅲ

2 学年

1 学年

II期

考える
専攻に合わせた
企画立案

+

作る
「作る」の
基礎がため

生活製品
コース
製品、工芸、
民芸、クラフト

情報伝達
コース
視覚伝達、
広告、広報

オペレーション (作る)

自分の専門を見つける

製品デザイン論Ⅱ

製品デザイン論Ⅰ

経済学

「考える」を学ぶ

「作る」を学ぶ

視覚伝達
デザイン実習

視覚伝達
デザイン

キャリア
プランニングⅠ

材料加工実習

材料加工法

デザイン材料

デザイン製図

物理学

英語Ⅱ

保健体育Ⅱ

I期 基礎づくり

作る・考えるの
基礎づくり

製品デザイン基礎実習Ⅰ
(インターンシップ)

デザイン概論

デッサン

安全衛生工学

造形実習
造形論

色彩実習
色彩学

マルチメディア実習
マルチメディア概論
ウェブデザイン実習
ウェブデザイン概論

英語Ⅰ

保健体育Ⅰ

数学

心理学

デザイン全般に関わる

デザイン全般に
関わる

岩手県立産業技術短期大学校 本校（矢巾キャンパス）

講義要目 = SYLLABUS =

令和7年3月発行

発 行 岩 手 県 立 産 業 技 術 短 期 大 学 校
〒 0 2 8 - 3 6 1 5
岩手県紫波郡矢巾町大字南矢幅第10地割3番地1
TEL 0 1 9 （ 6 9 7 ） 9 0 8 8 （代表）
FAX 0 1 9 （ 6 9 7 ） 9 0 8 9
